

2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年3月30日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	岩満賢次
研究課題	福祉系専門職の進路選択に影響を及ぼす要因～福祉教育との関係から～					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	岩満賢次	保健福祉学科・准教授	社会保障	研究の統括及び実施	
研究実績の概要	<p>1. 研究の背景及び目的</p> <p>本研究は、本学の教育改善を目的とし、福祉教育がその後の進路選択に与えた影響を分析することにある。日本では、福祉専門職人材の確保が急務の課題となっている。しかしながら、福祉系大学の多くは十分な人材を供給できていない現状があり、大学、短期大学、専門学校などの専門教育の現場のみでは、十分な対応ができない状況に陥っている。他方で、入学生の中には「子どもの時に老人ホームに行った経験で、福祉を目指した」などと、福祉教育により、福祉関係の職種を選ぶ人もいることが感覚的に分かっている。</p> <p>このようなことから、福祉教育と福祉専門職養成人材の確保には何らかの関係があると考えられる。以上のことから、本研究においては、福祉系大学の学生を対象とし、過去の福祉教育と進路選択に関するアンケート調査を行うことにより、福祉系大学の人材確保の方策を検討した。</p> <p>2. 研究の方法</p> <p>2020年度岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科に在籍する学生253名を対象に、学内のインターネットシステムを用いたアンケート調査を行い、88名から回答を得た（回収率34.7%）。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>3. 結果</p> <p>本研究の結果の一つとして、福祉に関心を持った時期は「高校生」が最も多いこと（44件）ならびに、そのきっかけについては、「家族（自身を含む）など周囲に福祉の支援を受けている人がいたため」と「ボランティア活動に参加したため」がそれぞれ29件と最も多い結果となった。きっかけについては、前者は介入が難しい問題である一方で、後者は福祉教育・ボランティア学習の推進で改善できるものであると考えることができる。そのことから、大学入学前の現場での体験活動が福祉専門職の養成に何らかの影響を与えていることが推察されることから、小中高校でのボランティア体験活動は重要であると考えられる結果となった。</p> <p>そのことから、今後、地域において、ボランティア学習の場を増やしていくための方法を今後検討していきたい。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査報告書作成（添付） ・ 令和3年度のOPUフォーラムにおいて報告を行う。